

# 「道徳の時間」学習指導案

- 1 学年 第1学年3組 35名
- 2 主題名 ともだちとなかよく 内容項目 B-友情, 信頼
- 3 教材名 およげないりすさん (出典:「私たちの道徳 小学校一・二年」文部科学省)
- 4 主題設定の理由

○ 友達とは家族以外の特に関わりをもつ存在である。そのため、友達と仲良くしたり助け合ったりして生まれる友情は、学校生活を送ることや人が生きていくうえできわめて重要なものである。そして、友達と仲良くし、助け合うことは、人間関係を豊かにし、よりよく生きるための大事な要素にもなる。

この時期の児童は、まだ、幼児期の自己中心性から脱しておらず、友だちの気持ちを理解したり学級での生活を共にしながら一緒に勉強したり、仲良く遊んだりすることを通して友だちのよさを感じて友達関係が構築していく。しかし、自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいことも少なくない。中には、友だちのことを考えずに行った言動から喧嘩になってしまうこともある。そこで、みんなと仲良くし、助け合って生活することのよさに気付かせることを通して、友達と仲良くし、助け合おうとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

○ 本学級の児童の実態を把握するため、事前の意識調査を行った。

質問内容	肯定的回答	否定的回答
①友達と仲良く遊ぶことができますか。	94% (33/35)	6% (2/35)
②みんなと仲良く遊ぶためには、どうしたら良いと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から声をかける。(12人)</li> <li>・優しくする。(4人)</li> <li>・遊びに入れてあげる。(4人)</li> <li>・楽しい気持ちでいる。(3人)</li> <li>・いつも笑顔でいる。(2人)</li> <li>・その他(8人)</li> </ul>	
③友達と一緒に遊んで楽しかったことはありますか。	86% (31/35)	14% (4/35)
④友達と助け合えたことはありますか。	46% (16/35)	54% (19/35)

アンケート結果から、本学級の「友情・信頼」に関する実態を次のように分析した。

- ・本学級の児童は、週に1回レクリエーションや、帰りの会でゲームを通して、多くの友達と関わったり遊んだりしてきた。大休憩や昼休憩にはクラスの友達だけでなく、異学年の児童と仲良く遊ぶ姿も見られる。トラブルになることもあるが、友達の気持ちを考えて行動できていなかったと反省したり謝ったりして、すぐ仲直りできるようになってきた。
- ・事前の意識調査では、ほとんどの児童が友達と仲良く遊んでいるという意識をもっている。仲良く遊ぶことができている理由として、「声をかけている」「優しくしている」という意見が多かった。また、楽しかった理由としては、「遊びが楽しかった」が圧倒的に多かった。
- ・アンケート結果から、本学級の児童の多くは、仲良く遊ぶことができていると思って

いることが分かる。また、普段の児童の姿からも、困っている友達がいたら助けたり、自分にできないことがあると声をかけて助けてもらったりしてクラスの中で助け合う姿が見られる。しかし、アンケート結果からは、児童は自分たちが「友達と助け合っている」という意識がある児童は低い。このことから、友達と仲良く遊ぶことはできているが、仲良く遊ぶことができているのは、友達の気持ちを考えながら学級での生活をともにしたり、困っている友達のことを心配し、助け合ったりすることができているということが分かっていないことがうかがえる。

- 指導にあたっては、導入では、普段の生活で友達と仲良く遊んでいる経験を想起させ、教材への方向付けをする。

基本発問では、りすさんに「一緒につれて行って」と頼まれた時、白鳥さんとあひるさんとかめさんがどんなことを考えたのか、その時のりすさんの気持ちを考えさせる。

中心発問では、かめさんの背中にみんながのって島へ行ったときの白鳥さんとあひるさんとかめさんの気持ちを考えさせ、誰一人として嫌な思いをしていないことを考えさせる。また、3人で島へ行ったときの楽しさと、りすさんも含めた4人で島へ行ったときの楽しさの違いを考えさせる補助発問を用意し、友達の気持ちを考え、助け合いながら友達と仲良く遊ぶと、みんなが楽しい気持ちになることに気付かせたい。

終末では、友達と助け合えた児童の姿に気づき、担任にあてた保護者からの手紙を読み、これからも友達と仲良く遊んだり、助け合ったりしようとする気持ちや、みんな仲良く生活したいと願う思いを温めて終わりたい。

## 5 他教科等との関連

福山 100NEN 教育における本校の【21世紀型“スキル&倫理観”】においては、低学年の目標である「友達の気持ちを考え、助け合うことができる子」（他者への思いやり）に関連している。授業や常時活動、行事活動、休憩時間、放課後など、学校生活において常に友達との関わりは絶え間ないため、生活の多岐にわたってこの内容項目との関連が見られる。学年としては、今学期に音楽発表会で合唱・合奏を行う。音楽科や学校行事を通してその練習が行われる中、一緒に練習したり困っている友達のことを心配し助け合ったりして進めている。本時ではそれらの場面を想起させながら振り返らせ、友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合ってよかったことを考えさせながら友達と仲良くするためにはどうしたらよいかをイメージさせられる指導を行いたい。

## 6 ねらい

友達と仲良く遊ぶためには、友達の気持ちを考え、嫌な思いやひとりぼっちで悲しい思いをする人をつくらないことが大切だということを理解し、友達と仲良くしたり助け合ったりしようとする態度を育てる。

## 7 準備物 場面絵 短冊 ワークシート 座席表

8 学習過程

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	支援(○)・評価(★)
導入	1 友達とどんなことをして仲良く遊びますか。	○友達と仲良く遊んだ経験を話し合う。 ・おにごっこをして仲良く遊んだ。 ・ブランコにのって仲良く遊んだ。	○友だちと仲良く遊んだ経験を思い出すことで教材につなげる。
展開	2 教材「およげないりすさん」を聞き、話し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">りすさんに頼まれた時、3人はどんなことを考えていただろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・りすさんは泳げないから仕方ない。</li> <li>・泳げないから連れて行ってあげられない。</li> <li>・ごめんね。</li> </ul>	○「りすさんは泳げないからだめ」と言った時の3人の思いと、りすさんの気持ちを考えさせる。  ○役割演技を行うことで、4人の気持ちを考えさせる。  ○ワークシートに書かせることにより、みんなの気付きをじっくりと考えさせる。  ○座席表で見取り、意図的指名に生かす。  ★みんなで仲良く遊ぶためには、友達の気持ちを考え、嫌な思いやひとりぼっちで悲しい思いをしている人をつくらないことが大切だということを理解し、友達と仲良くしたり助け合ったりしようとする思いをもつことができたか。
	3 教材後段を聞き、話し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">楽しくない3人はどんなことを考えていただろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・りすさんのことが気になるな。</li> <li>・りすさんがひとりぼっちになっているかな。心配だな。</li> <li>・りすさんに可哀想なことをしたな。</li> <li>・りすさん今頃悲しんでいるかな。</li> <li>・りすさんもいたほうが楽しかったな。</li> <li>・りすさんも誘おう。</li> </ul> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;">みんなで島へ行っている時、白鳥さんとあひるさんとかめさんはどんなことを考えていただろう。</div> <p>&lt;A:みんなで行くことを考えたこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初からこうしていればよかった。</li> <li>・みんなでこの方法を考えて良かった。</li> <li>・カメさんすごいな。</li> <li>・これで遊べるぞ。</li> </ul> <p>&lt;B:みんなの気持ちが一つになったこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからみんなで楽しく遊ぶぞ。</li> <li>・みんなで遊べるから嬉しい。</li> <li>・みんなが一緒に楽しい。</li> <li>・やっぱり楽しい。</li> <li>・誰も悲しい思いをする人がいなくなって嬉しい。</li> <li>・みんながにこにこ顔になってくれたからうれしい。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">3人で島へ行くときと4人で島へ行くときの楽しさは、同じだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人のほうが楽しい。</li> <li>・ひとりぼっちで悲しい思いをしている人がいないから楽しい。</li> <li>・悲しい思いをしていたりすさんが喜んでくれたから自分たちも楽しい。</li> <li>・みんなが笑顔で遊べると楽しい。</li> <li>・できないことがあってもみんなが笑顔になるようにみんなで助け合う。</li> </ul>	
終末	4 手紙を読む。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">おうちの人から、あるお手紙が届きました。</div>	○保護者からの手紙を読み、実生活で友達と仲良くしたり、助け合ったりしたときのことを

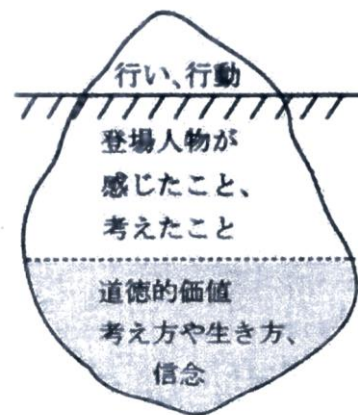
4人のときの方が楽しいのはなぜだろう。



( 1 ) 年 ( 3 ) 組

内容項目 B-友情, 信頼

教材名 およげないりすさん



### 【道徳的価値の自覚を深める指導にするために】

行い 行動	かめさんの背中にのったりすさんをかこんで、みんなはしまへ行った。
登場人物が 感じたこと 考えたこと	<ul style="list-style-type: none"><li>・最初からこうしていれば。</li><li>・みんなでこの方法を考えてよかった。</li><li>・りすさん喜んでくれるかな。</li></ul>
道徳的価値 考え方 生き方 信念	<ul style="list-style-type: none"><li>・友達と仲良く遊ぶためには、友達の気持ちを考えることが大事。</li><li>・友達と助け合えばみんなで仲良くできる。</li><li>・みんなが楽しいと仲良く遊ぶことができる。</li><li>・みんながにこにこだとみんなが楽しい。</li><li>・1人ぼっちでや嫌な気持ちな人をつくらないようにするとみんなが楽しい。</li></ul>